



No. 16

# びびぎ

ドラム缶工業会会報

## ドラム缶等の平成8年度出荷実績と 平成9年度需要見通しについて

〔平成8年度出荷実績〕

200ℓ缶好調

4年振りに1千2百万缶台を回復

このたびドラム缶工業会の平成8年度出荷実績がまとまりました。

全缶種合計では39,419千缶(341,535トン)となりましたが、缶種別では中小型缶が前年度を割り込んだ以外は、何れの缶種も前年度を上回る結果となっております(表-1参照)。

特に200ℓ缶については前年度を大きく上回り、平成4

年度並みの水準となったほか、平成4年度をピークに減少傾向となっていたステンレス缶についても前年度を上回りました。

用途別にみますと、塗料部門は前年度を下回りましたが、需要の7割を占める化学部門は前年度を大きく上回り、全体の出荷実績を押し上げる原動力となっております。

なお平成9年1月ロシア船の重油流出事故に際しては、ドラム缶を提供するなど、災害対策本部の要請に機敏に対応しました。

(表-1) 平成8年度缶種別・用途別出荷実績および平成9年度缶種別需要見通し

缶種	平成8年度実績								平成9年度見通し		
	トン数	用途別(トン)					本数 (千本)	前年度比 (%)	本数 (千本)	前年度比 (%)	トン数
		石油	化学	塗料	食品	その他					
200ℓ缶	287,739	45,412	211,081	19,166	2,883	9,197	12,142	104.3	11,800	98.0	279,424
ペール缶	41,439	19,792	18,507	1,639		1,501	25,711	100.9	25,700	100.0	41,320
中小型缶	7,670	208	7,330	41		91	1,186	98.8	1,198	99.1	7,753
亜鉛鉄板缶	4,089	131	3,550	148	60	200	357	112.3	332	99.4	3,875
ステンレス缶	598	3	558	33	4		23	115.0	23	100.0	583
合計	341,535	65,546	241,026	21,027	2,947	10,989	39,419	102.0	39,053	(注) 99.4	332,955
前年度比(%)	104.0	102.4	104.4	98.0	103.5	121.8	-	-	-	-	(注) 98.3
構成比(%)	100.0	19.2	70.5	6.2	0.9	3.2	-	-	-	-	-

(注) 平成9年度見通しの前年度比は、平成8年2月末時点での実績見込に対する比率を表記しております。

(表-2) 缶種別出荷実績推移

本数(単位:千本)

缶種	平成元年度	2年度	3年度	4年度	5年度	6年度	7年度	8年度	9年度見通し
200ℓ缶	11,993	12,968	12,822	12,156	11,190	11,813	11,636	12,142	11,800
ペール缶	25,735	27,003	26,953	26,622	24,805	25,538	25,474	25,711	25,700
中小型缶	2,083	2,079	1,820	1,775	1,347	1,185	1,201	1,186	1,198
亜鉛鉄板缶	207	363	579	509	340	324	318	357	332
ステンレス缶	19	26	34	36	36	26	20	23	23
合計	40,036	42,439	42,208	41,103	37,718	38,888	38,650	39,419	39,053



重油流出事故による新ドラム缶の出荷は約4万缶にのぼりました。

**(平成9年度需要見通し)**

**全缶種合計で1.7%減を予測**

平成9年度の需要見通しについては、円安による輸出増という期待が一部であるものの、総合的には景気回復に力強さが見られず内需の増は期待薄であり、また消費税アップの影響も多少あって、前年度と比較しますと、トンベースで1.7%の減と予測しております。

缶種別の見通しについては以下の通りです。

〔200ℓ缶〕については、1トンコンテナをはじめとする競合容器への切替え等があるなかで安定した需要を維持してまいりましたが、平成9年度については、消費税増税の影響により、化学・塗料部門で減を予想し、さらに好調に推移してきた間接輸出についても、ピークは過ぎ、通常レベルに戻ると考え、前年度と比べ、2%減を予測しております。

〔ペール缶〕は輸入缶の影響が一部にあり、また部門毎に多少の好不調のバラツキがありますが、総合的には前年

度並みを予測しております。

〔中小型缶〕は、主力充填品である「粉モノ」が海外製造主体となってきており、一部は国内充填に復帰したものの減少傾向にストップが掛かる迄には至っておりません。

若干の輸出増を期待しますが、受注は依然として低迷状態にあります。

〔亜鉛鉄板缶〕は、昨年秋以降輸出物件が好調で、円安による追い風は、上期迄は期待できそうですが、下期は減少傾向、通期では前年度を下回ると予測しております。

〔ステンレス缶〕は、新規需要は一巡し、主な需要は補充缶のみとなっており、若干の輸出があるにせよ、前年度並みの需要にとどまると予測しております。

## ICDMワシントン役員会について

アメリカ ワシントンDCで開催されたICDR (International Confederation of Drum Reconditioners, ドラム更生業者国際連盟) の第10回国際会議 (1997年6月8日~11日) に合わせ、ICDM (International Confederation of Drum Manufacturers, 国際鋼製ドラム製造業者連合会) の役員会が、1997年6月11日(水)、アメリカ ワシントンDCで開催されました。その概要は以下の通りです。

**開催日**：1997年6月11日(水)

**出席者**：永井ICDM会長並びに日本(JSDA)、米国(SSCI)および欧州(SEFA)のICDM3地域工業会の代表。(13名他)  
なお、日本からは、永井ICDM会長の他、山口理事長および柴野専務理事の3名が出席。

**会議の内容**：次の議題について3地域工業会からそれぞれ報告を行い、それに対して討議しました。

- ① 鋼製ドラムの国際標準化
- ② 危険物輸送容器の試験方法基準CEN/ISO化への対応
- ③ 国際輸送規則および国連勧告に関する諸関連事項
- ④ マーケティング事項：代替品との競合、生産統計報告



- ⑤ 環境問題：鋼製ドラムのライフサイクル分析、空きドラムの回収・処分
- ⑥ 鋼製ドラム業界と更生缶業界との協調

上記議題のうち、鋼製ドラムの国際標準化については昨年4月の大津国際会議で合意したICDM国際標準規格をISO規格化する手続きをとり、ISO/TC 122にWG 6が設置され、ISO化へ前進したこと。第1回ISO/TC122/WG 6会議が1997年6月24日オランダで開催されることが報告されました。（なお、この会議には日本から高橋国際標準化WG主査が出席しました。）

また危険物輸送容器の試験方法基準については、CEN（欧州標準化委員会）の動きを踏まえて、ICDMとしての対応を図るためアドホックWG 2を設置すること。第1回WG 2会議を1997年9月23日（火）アメリカワシントンDCで開催することも併せて決定しました。

## ICDM、ICDR合同会議について

6月11日（水）第3回ICDM、ICDR合同会議がアメリカワシントンDCで開催され、鋼製ドラムの標準化、試験基準、表示マーク、直接リサイクル等ICDM、ICDR共通の課題について討議を行いました。特に表示マークに関しては恒久的表示義務及びドラム板厚表示問題についてICDM、ICDRそれぞれの立場で議論しました。

## 第3回AOSD国際会議について

1994年4月にシンガポールで開催された第2回AOSD会議で発足した「アジア・オセアニア鋼製ドラム製造業者協会」（Association of Asia-Oceanic Steel Drum Manufacturers = 略称AOSD）の第3回AOSD会議を、「アジアにおける鋼製ドラムの時代」をテーマとして、下記の要領で開催することが決定しました。

1. 会 期：1998年2月16日（月）～2月19日（木）
2. 場 所：タージ・マハル・ホテル（インド ムンバイ）
3. 主 催：AOSD
4. 開催工業会：インド鋼製ドラム工業会
5. 日程概要：2月16日（月）AOSD総会  
発表及び討議（各国のドラム・ペールの市場動向）  
2月17日（火）発表及び討議（同上）  
同 上（環境問題を含む技術問題）  
2月18日（水）及び19日（木）  
オプションルツァー

### ロゴマークの商標登録について

当工業会と日本ドラム缶更生工業会と共同で作成しました「3S」をシンボライズしたロゴマークを商標出願中でしたが、平成9年4月11日付けで商標登録となりました。これを機会にこのロゴマークの更なる活用促進を図りたいと思います。



▼今年は、本来梅雨であるべき時期にすでに30°Cを超える真夏日が何日も続き、ゴールデンウィークに行った蓼科の清々しさ、おいしい水をなつかしく思い出している。

▼八ヶ岳の山々は、男性的な山容で私を迎えてくれた。あの頃ちょうど芽吹き始めていた白樺・唐松たちは、この暑さの中でも青々と葉や枝をそよがせているのだろうか。

▼時々刻々変化する山々は、いつ行っても、何度見ても飽きることを知らな

い。そういえば、最近山荘の近くにできた露天風呂も、楽しみのひとつとなっていることを思い出した。暑い夏の一日を過ごしたあと、涼風がほほをなでる露天風呂で、また、のんびりとしてみたい。

（酒井義太郎）



ザ・モア!  
日鐵ドラム

本社ビル

日鐵ドラム  
株式會社

当社は、日本で最初のドラム缶メーカーとして、創業以来「社業を通じて社会に貢献する」を基本に、製造技術の革新と業界の健全な発展を目指し、ひたすら努力を続けてまいりました。現在では、全国に4拠点（千葉・相模原・名古屋・大阪）を配し、独自開発したAエリクテスターの全工場設置と計画的なISO認証取得など、品質を通じて顧客に満足をお届けられる企業として不動の地位を築いてまいりました。

これまでに蓄積された技術力と信頼に裏打ちされた高品質、また、IBCを中心とした新しい高機能容器の提供に努力を傾注するなど、時代をみつめ、「ザ・モアノ」を合言葉に、新しい価値を創造する飽くなき情熱を燃やしています。これが日鐵ドラムの資質なのであります。

株式会社  
前田製作所

当社は、平成7年9月に多くの方々の永年に亘るご支援とご教導のお陰で、創立50年を迎えることが出来ました。

現在主製品は、20ℓの金属ペールおよびプラスチックペールがありますが、その他金属製ミニペール缶（10ℓ、7ℓ、5ℓ、3ℓ）等の小缶類、大型容器としては200ℓプラスチックドラム缶、1,000ℓ折たたみ式コンテナ等も製造しております。

また最近では海外展開をして、中国河北省廊坊市で平成6年に合併会社を設立、金属ペール缶、4ℓ角缶の生産を開始、翌7年に金属印刷工場を稼働いたしました。

平成8年度は、総合製缶会社を目標に独資会社を設立準備中であります。

国内では金属ペール缶についてISO推進チームを編成し、認証取得へ向けて全社一丸となって取り組んでおります。

これからも国際的な視野に立ち、またユーザーの物流合理化のご要望に沿いながら、一層の努力を傾注してまいります。

## ドラム缶工業会

東京都中央区日本橋茅場町3-2-10

(鉄鋼会館3階)

TEL 03-3669-5141 FAX 03-3669-2969

ADK 秋田ドラム工業株式会社  
秋田市土崎港北6-2-22 ☎ 0188-45-1105川鉄コンテナ株式会社  
大阪市北区堂島浜2-1-29 ☎ 06-344-9711協和容器株式会社  
新潟市下木戸2-4-20 ☎ 025-274-0371鋼管ドラム株式会社  
東京都中央区銀座8-11-11 ☎ 03-3574-0711斎藤ドラム缶工業株式会社  
横浜市鶴見区生麦3-15-14 ☎ 045-521-3881山陽ドラム缶工業株式会社  
岡山県倉敷市中島1230 ☎ 0864-65-3680新邦工業株式会社  
東京都千代田区神田佐久間町4-18 ☎ 03-3861-5285ダイカン株式会社  
大阪市此花区島屋2-11-63 ☎ 06-466-4801大同鉄器株式会社  
尼崎市抗瀬南新町3-2-21 ☎ 06-488-2468株式会社東京ドラム罐製作所  
東京都葛飾区東四ツ木2-23-16 ☎ 03-3695-8511東邦シートフレーム株式会社  
東京都中央区日本橋3-12-2 ☎ 03-3274-6212株式会社長尾製缶所  
和歌山県有田郡吉備町野田144 ☎ 0737-52-2591日鐵ドラム株式會社  
東京都江東区亀戸1-5-7 ☎ 03-5627-2311株式会社前田製作所  
東京都港区新橋1-5-5 ☎ 03-3573-7101森島金属工業株式会社  
千葉県佐倉市大作2-5-5 ☎ 043-498-3551株式会社山本工作所  
北九州市八幡東区大字枝光1950-10 ☎ 093-681-2431株式会社ユニコン  
大阪府高石市高砂2-7 ☎ 0722-68-0515

ひびき No.16(平成9年7月22日発行)

発行人 ドラム缶工業会  
専務理事 柴野 正裕

本誌は再生紙を使用しています。